

## 紙芝居「古事記神話」を演ずるにあたって（解説）

公益財団法人 新教育者連盟

日本の未来を担う子どもたちに、日本神話に流れる「清き、明き・直き心」を是非知って、生きて欲しいと願って、私達はこの紙芝居「古事記神話」を作りました。原典である『古事記上巻』にできるかぎり沿ったうえで、何を古事記神話が物語っているのかを、子どもたちが理解し易いよう願って制作しました。

古事記神話。それは単なるおとぎ話ではなく、日本の伝統・文化の原点、日本のいのちとも言うべき大切なものです。これを私達は先人達から受け継ぎました。それを更に、子どもたちや孫たちに伝え、彼らが日本の文化、日本の伝統に自信と誇りを持って生きて欲しい、広く世界に発信して欲しいと、強く願っています。

古事記神話に描かれている物語から、私達は生きる上での様々な重大な「ヒント」を得ることもできます。たとえば、伊邪那岐神と伊邪那美神の物語は、神様でも失敗することが描かれています。混乱した時には、私心を去って教えを仰ぐと、そこから本来の智慧が出てきて、一層よい状態になることを教えてくれています。

また天の岩屋の物語は、どんな困難に出逢っても、必ずよくなると信じて仲良く明るく笑っていると、状況が好転し困難が解決していくことを教えてくれています。

神様のお名前をはじめとする古代の言葉には、あまりなじみがなく、最初は難しいように感じられることもあるかも知れません。しかしながら私達の祖先は、言葉には「ものごとを生み出す力・言葉」があることを知っていました。その「言葉」のうちからによって、何度も繰り返し聞き、話しているうちに、段々と自分の「いのち」と響きあって、いつか自然に神話が伝えたい真意がわかってくるのです。

たとえば、「高天原、高天原、高天原、……」と何度も声に出してみてください。高く広がる大きな世界が浮かんで来ませんか。これが言葉であり、「古事記」の世界観です。古事記本文の冒頭にある「天地のはじめの時、高天原になりませる神の名は……」など、少し難しい原文をあえて入れているのは、原文の美しい「言葉の響き」を子どもたちをはじめ皆様に届けたいとの思いからです。

従って多少難しく感じられるところがあるかも知れませんが、視聴することもたちの年齢や理解度に応じて、ふさわしい表現で演じられるとよいでしょう。

シリーズとなっていますが、一幕から八幕まで順に演じてても単独で演じてても、ど

こちらでも結構です。日本の皇統(皇位の由来)や建国の歴史を学ぶ場合は、最初から順に演じていただくのがよいでしょう。

世界で唯一、令和四年(西暦二〇二二年)では二千六百八十二年も続くと言われる万世一系の皇室をいただく日本の建国の素晴らしさを、この紙芝居「古事記神話」を使ってぜひこともたちに伝えて下さい。

多くの子どもたちが、生まれた国に大いなる誇りと喜びを持って、明るい、和やかな豊かな人生を拓いて行って欲しいと願っています。

なお、この紙芝居制作に際し、絵の制作等に絶大なご協力を頂きました井谷真那樣、この紙芝居の推敲に協力頂きました新教育者連盟の紙芝居「古事記神話」監修チームの皆様にご心より感謝申し上げます。

公益財団法人新教育者連盟

令和四年(皇紀二六八二年) 九月二十七日

040427

### 紙芝居『古事記神話』シリーズ

一、 天地のはじめ | 伊邪那岐命と伊邪那美命 |

(以下、順次発行予定)

二 伊邪那岐命の黄泉帰りと天照大御神ご誕生

三 天照大御神 | 天の岩戸開き |

四 須佐之男命 | 八俣の大蛇退治 |

五 大国主命 | 因幡の白うさぎ |

六 国譲り

七 天孫降臨

八 海幸彦と山幸彦